■追悼

白石純三教授の御逝去を悼む

田　辺　敬　貴*

日本神経心理学会評議員で第17回学会会長を務められた大阪大学名誉教授白石純三先生が，平成6年6月23日に逝去された。昭和5年11月21日のお生まれで，享年63歳であった。

先生は昭和29年3月大阪大学医学部を卒業後，医師実地修練を経て昭和30年5月大阪大学医学部助手（生理学第一教室）に採用。その後，昭和33年9月から大阪府衛生部等に勤務。昭和37年9月再び大阪大学医学部助手（精神医学教室）となり，昭和44年8月大阪大学保健管理センター講師，昭和50年2月同助教授，昭和56年4月同健康体育部助教授に配置換えとともに大学院医学研究科（精神衛生学）を担当し，昭和56年10月同教授に昇任，健康科学系健康医学第三部門で精神衛生学を担当され，昭和60年から2年間健康体育部長，並びに大阪大学評議員を務められた。平成6年4月，停年退官後，大阪大学名誉教授の称号を授与された。

先生の研究分野は，生理学を出発点として，超音波ドプラ法による脳循環測定法の基礎研究とその精神神経学領域への応用，さらに神経心理学へと発展する一方，精神衛生面では大学生の不適応予測やストレス構造等に関する研究の他，健康概念の学問体系化などに及ぶ幅広い学際領域にわたっており，各分野において独創的な研究成果をあげられた。神経心理関係では，早くから病態失認ないし病識の問題に関心を示されWeinsteinのDenial of Illnessを読みたがっておられ，昭和61年に筆者が留学中のローザンヌからお届けした時には大層喜ばれたと聞く。学会関係では日本神経心理学会のほか，日本心身医学会，日本臨床生理学会，日本脳卒中学会，日本失語症学会および社団法人全国大学保健管理協会等の各評議員，大学精神衛生研究会運営委員などを歴任された。以上の功績に対し，平成6年7月15日正四位勲三等旭日中綬章が授与された。

故　白石純三教授

先生は狂言や謡曲もたしなまれ，専門領域のみならず，哲学，文学，芸術にも造詣が深かった。時にはその単刀直入な言動から誤解をまねくこともあったが，飄々としたザックバランな親しみやすいお人柄は，門下生をはじめ多くの各界知友から敬愛された。

先生が研究者のあるべき姿としてかねがね提

*大阪大学健康体育部健康医学第三部門

唱されていた言葉「狂・俗・愛・雅・聖・遊」を思い出す。すなわち，人生においても研究においても，まず「狂」うことが必要でこれだと興味を持ったら徹底的に追求，実践しないといけない，何事も狂って熱中しないといけない。しかし，ただ狂っているだけではだめで，そこに「俗」，つまり算盤をはじいて損得を計算することや見通しが必要である。その次には「愛と雅」が必要で，人を大切にし研究を大切にするという姿勢と，さらに優雅さ，美しさが欲しい。そして最後に，「聖と遊」の境地，天の声を聞き天の道理，宇宙の摂理を知り，そこに流れるように遊びたい，天の道に遊ぶようになろう，というのがその主旨であった。

ロマンチストであった先生が酔って歌われる歌に月の砂漠があった。先生の美声を想い出しつつ，ここに哀悼の盃を掲げたい。（平成7年1月末日　記）